

## にこりこー帯にぎわい会議 第5回 会議録

日時 平成29年5月19日(金) 19:00~21:00

場所 箕輪町役場 2階 大会議室

参加者(敬称略)

委員 鮎澤進二、唐澤榮子、唐澤一美、唐澤良忠、栗原勇雄、黒木一郎、  
柴みずほ、関幹子、増沢弘久、和田篤士、小野路子 以上11名

(欠席 根橋英一、木下深、齋藤浩介、柴宮勇一、田中健太、廣瀬桃子)

事務局 産業振興課 未来農戦略係長 土岐 俊

傍聴者 なし(報道除く)

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 委員自己紹介

今回会議から、委員交代 大槻智也委員 → 根橋英一委員

新規参加 小野路子委員(子育て中の主婦の観点から)

廣瀬桃子委員(元地域おこし協力隊)

### 4 協議事項

① たべりこ・加工所のリニューアルの方向性について(資料1)

**事務局 :**

前回の直売所の検討同様、第3回に集約した「にこりこー帯がにぎわうための考え」について、今日検討する「たべりこ」「加工所」に関するものを集めて、テーマ別に集約したものが(資料1)です。

にこりこー帯のリニューアルコンセプトを「町民が行きたくなる場所」に決まり、それを落とし込んだ施設別コンセプト、それを実現するための運営体制、取扱商品、施設設備、集客という括りでまとめています。

今日の会議はこちらをたたき台に意見を頂き、提案を厚くするのが目的です。

**委員**

あじーなで試食を設けているように、加工所で作ったものを食べてもらうというアクションが必要だと思う。また、たべりこの入店待ちの時間で買い物をす

る、パンフレットが手にとれる等の工夫があるといい。  
加工所の機械が稼働して物を作っているところをもっと見られる、体験できる  
といい。トマトの木では土日 1,700 円だが、毎回混んでいるし、行くたびに○  
○フェアなど、何か違う取組をしている。

**委員：**

にこりこでは日々日常の業務の中で、方向性をリーダーが示していないのだと  
思う。店長がやろうと思っても、やる人がいない、リソースがない。リーダー  
シップが必要。

まず、「なにをやるか」「誰がやるか」をはっきりしてからの方がいい。

それから、「責任者」がいない。責任者とは“失敗するとお金で損をする人”の  
こと。これが必要である。

**委員：**

たべりこはあの施設の中では利益が出る施設のはず。町の人が食事したくなる  
ようにしなくてはならない。

**柴 委員：**

どこかの真似をしてもダメ。大芝、みはらしと同じでは集客につながらない。  
現状のクオリティを上げていくか、違う方向にするのか。

また、違うものを打ち出して、協力できる体制が必要。あの場所は小さいとこ  
ろなので、大きな所から紹介してもらえるような関係。

**委員：**

ターゲットについて、当初にこりこはイートインコーナーを設けて若い人を狙  
ったが、ほとんど利用されていない。一番の利用者はおばさん世代。

建物を直したり、アーケードをつけてみても良くなる。人は来ないと思う。

木曽の道の駅の視察で分かったのは、上手くやっているところは「民間から連  
れてきた責任者」がいること。まずは駅長が必要なのでは？

**委員：**

ターゲットを絞った後は、「ターゲットに選んでもらうこと」が必要。

例えばお年寄りをターゲットにしたら、パンフレットの文字を大きくするなど  
の PDCA。既に投資しているので、投資分の回収がまずは目的になるはず。

**委員：**

ここに来ている委員は良いが、町民がにこりこを知らなすぎる。

いいものはたくさんあるが、みんなの中に浸透していない。大量生産しなくて  
も、限定販売という方法もある。今あるもので、良さを伝える工夫もある。

**委員：**

最低、たべりこには本当に美味しいものがあることが必要。

**委員：**

我々民間があの手この手で食欲にやるのは、そうしなければ潰れてしまうから。現在はそうでない、潰れない。そこが一番おかしい。そこを一番指摘したい。売れても売れなくても、給料は出て雇用は守られる。

**委員：**

レストランはお金を取る試食コーナー。お金を取れるものになるといい。たべりこのシェフが良くなればいいが、そういう自由度はあるのか。にこりこが先導しなくてはいけない。

**委員：**

駒ヶ根のななちゃんレストランは、おばちゃんが一生懸命作っている。そこそこ美味しいし、揚げ物などもある。落ち着いていて、予約しないと入れない。隣接する直売所の中身はイマイチだが、レストランで持っている。たべりこは、蕎麦はとにかくおいしいが、それ以外は美味しくない。個々のスタッフは一生懸命やっているが、にこりこ、たべりこの責任者がうまくない。辰野のかやぶきはおやきで、南アルプス村はクロワッサンで引っ張っている。全ての施設が上手く行っているわけではなく、引っ張っているものがある。

**委員：**

全体を引っ張るものや引っ張る施設があって、大したことがなくてもそれ以外の施設が潤う構造。

**委員：**

一日の中で、今日発売のできたてジャム、打ちたての蕎麦などが提供できる時間をつくるなど、メリハリをつけては。

**委員：**

たべりこはやり方次第だと思う。定食にするとか、夜は料理長が変わるとか。夜こそ地元の人に来るし、行くところもないので有効活用しては。

**委員：**

道の駅のレストランが午後3時に終わる、というわけにはいかない。

**委員：**

伊北インターを降りて一つ目の施設、人を集める時間帯を考えれば。

**委員：**

みはらしファームの果樹担当者が、箕輪が脅威だと言っている。にこりこ周辺の農地のさくらんぼ、高級ブドウ、桃など品質が高い。軽食やジャムの活用に加え、ブルーベリーもちなども提案できるのでは。強い部分をもっと活かして、高級ブドウナガノパープルのワインを高田さんが作っているが、これも他にはない。もっと上手な PR ができたら。あるもので、

もっとやれることがある。

**委員：**

ながた荘で出すお食事のものを、にこりこでも出せるように考えたら。鯉の旨煮など、単価の高い物ものあるといい。

**委員：**

素晴らしいアイデアは沢山あるが、だれがやるのか。

**事務局：**

あの施設は、農家所得の向上と町の農の魅力の発信という「公益」を目的に、商売という手段を使って実現するもの。行政が直接商売することができないので、町が8割株主の振興公社で運営している。

単純に利益を求めて商売だけをするなら町が関与する必要はなく、公的な役割を果たしてもらおう部分があるため、そこに必要な経費については指定管理料として算定し、支払っている。

**委員：**

町がやるのが前提だから、アイデアを提供している。

**委員：**

社長が町長で公社で経営する場合には、根本的に会社が潰れることがないし、雇用も守られる。民間はそうはいかないし、失敗すれば本当に会社もなくなってしまう。上手く行くわけがない。あの職場がなくなって、困る人がいない。

**委員：**

責任者が必要、これが委員会の結論でもいいのではないか。

**委員：**

箕輪町になくってはならない会社にならなくてはならない。

**委員：**

であれば、社長は町長でない方がいい。責任者をおくべき。

**委員：**

責任者の考え方で、やり方は変わるのではないか。であれば、ここでの皆さんの提案は、上滑りしてしまう。これ以上議論を詰めたものが、どこへ行ってしまふのか。結局元に戻ってしまうのではないか。

**事務局：**

運営主体をどうするかという問題はこの会議で検討すること。

リニューアルの方向性と事業が見えてきたら、誰がやるのが適切かを検討する予定で、それまでは「行政主体で委員の意見を活かしてリニューアルする」、「コンセプトと委員会での提案を伝えつつ、やり方は新しい運営主体に委ねる」の2パターンで検討することを考えていた。

ご指摘のとおり、委員の皆さんの提案については、誰が請け負うのかによって活かされ方が変わってくる。

**委員：**

提案を誰に言っているのかわからない。

**委員：**

利益は目的なのか。黒字経営が前提なのか。

**事務局：**

商売の部分は黒字が前提。公益として依頼している部分の経費を除き、個別施設ごとの決算は黒字であることが前提。

また、現在公益としてどういう成果を上げているか、今後運営主体に公益として何をどの程度求めるのか、それはどのくらいの費用がかかるのか、といった検討も必要。

**委員：**

いずれにしても経営が上手く行かないと、目的は実現できない。

**委員：**

問題が多すぎる。一つ一つ小分けにして、検討していかないと進まないし、元へ戻ってしまう。

**事務局：**

運営主体によって、委員会の検討の方向性が異なってくるため、個別の議論を詳細に詰める前に、運営主体の方向性について、町長にも参加してもらい、委員の皆さんと意見交換する場を次回作りたい。

**委員：**

果樹団地の話は、JAの協力なしにはできないと思う。

**次回開催日時** 6月29日（木）19：00～21：00

**場所** 箕輪町役場2階 大会議室